



NO11

# 学校通信 みわ道 Plus

令和6年11月13日  
筑前町立三輪小学校  
校長 荒木 賢治

何事も本番を想定し準備の段階から気持ちを込めて練習を重ねます…

## ★本番に向けてクオリティーを上げる!

みわっこ文化祭に向けて、どの学年も質の高い練習の段階に入っています。全体の動きや歌はもちろんのこと、台詞や表情などにも工夫している子どもたちがいます。反対に苦手な子どもが一つの言葉を一生懸命発表する時もあります。どのような立場であっても、これまで学習してきたことを見ているみんなに伝えようと表現していく力はとても価値のあることです。この練習の成果を本番の発表の時に出示してもらいたいですね。



3年生の練習の様子

## ★11/11 人文字撮影を行いました



上空から見ると「筑前町」がくっきり!

筑前町20周年の事業として「人文字撮影」が行われました。全校児童で運動場に書かれた「筑前町」のラインに沿って人文字をつくります。手には大きな黒の色画用紙を持ち頭上に掲げます。上空にあるドローンが全体の文字を撮影します。天候にも恵まれこの日の撮影は無事に終了。人文字撮影後は同じドローンが児童の手を振る様子をぐるりと撮影していました。

筑前町で編集して（筑前町の小中学校の人文字を撮影後）撮影の様子など広報誌に掲載される予定です。

## ～避難訓練を考える～

11月8日に火災避難訓練を行いました。子どもたちには事前に予告をしていません。昼休みの時間帯でもあり、非常ベルが鳴ったら、冷静に放送を聞いて避難を始める…といった基本行動ができるかが“鍵”となります。いざベルがなると備え付けの非常設備からは「火事です～火事です～」のアナウンスが自動で流れます。それを聞くと避難指示をしていないのに運動場に大急ぎで走り出したり、同時に教室に戻ったり…以前に指導していた行動ができません。

考えてみると、この避難訓練は“マニュアル通りの訓練”も多かったという課題がありそうです。校舎の火災の場合一気に燃え上がるということは少なく、落ち着いて避難できればいいのですが現実的には、訓練のシナリオとは違ってきます。（例えば担任の不在、放送機器のダウン、運動場の集合が困難等々…）

現実的な訓練を工夫して考えることが必要だと感じました。

おさない はしらない



しゃべらない もどらない